

平成 24 年度 文部科学省先進的医療イノベーション人材養成事業
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」

活動成果報告書

金沢大学・富山大学・福井大学・金沢医科大学・石川県立看護大学

平成 29 年 3 月

はじめに

本報告書は、平成24年度 文部科学省先進的医療イノベーション人材養成事業「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン」に採択された「北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン」の足かけ5年（平成24年4月から平成29年3月の5年間）にわたる取組の成果をまとめたものです。

がん医療の担い手となるがん専門医師、並びにがん医療に携わる医療人を養成する大学の取組プログラムとして、本プログラムの定着を図り、恒常的ながん専門医療人養成プログラムとすべく仕組みの構築が強く求められております。

北陸がんプロでは、本事業の内部評価並びに、第三者による客観的な本事業の外部評価を実施し、本プログラムの発展的展開のためのPDCAプロセスの仕組み構築に取組むと共に、当初目標を達成するための事業の見直しを日々行ってまいりました。

今後の展開として、がん専門医療人育成プログラムとしてより良い仕組みへの改善、また広く他大学院への情報発信を行い、わが国のがん医療を担う医療人の養成推進を期待するとともに、わが国のがん医療向上の推進の一助になればと思います。

北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン統括コーディネーター
金沢大学医薬保健研究域医学系特任教授 並木 幹夫

はじめに

目次

第Ⅰ部 事業の概要

| | |
|-----------------|----|
| 1. 事業の概要・特徴 | 1 |
| 2. 事業実施の必要性 | 2 |
| 3. 達成目標 | 3 |
| 4. 事業の体制 | 3 |
| 5. 実施計画 | |
| ◇5年間の実施計画 | 4 |
| ◇教育コース一覧 | 5 |
| 6. 教育コース | |
| ◇教育コースの概要 | 7 |
| ◇がんに特化した講座の設置計画 | 28 |

第Ⅱ部 実績および成果

| | |
|---------------------|----|
| 1. 事業実績 | |
| ◇取組概要 | 29 |
| ◇がんプロ行事一覧 | 31 |
| ◇主な取り組み事業 | 46 |
| ◇がんセンターボード症例検討会 | 47 |
| ◇がん看護事例検討会 | 55 |
| ◇市民公開講座 | 63 |
| ◇FD研修会 | 75 |
| ◇北陸がんプロ運営協議会 | 76 |
| 2. 養成実績 | |
| ◇受入実績 | 87 |
| 3. 事業成果（量的成果） | |
| ◇がん専門医療人の養成に関する成果 | 88 |
| ◇その他の成果 | 92 |
| 4. 事業成果（質的成果） | |
| ◇関係機関および本人へのアンケート調査 | 93 |

第Ⅲ部 外部評価

| | |
|------------------|-----|
| 1. 文部科学省中間評価 | |
| ◇中間評価結果 | 103 |
| ◇中間評価後の改善計画の進捗状況 | 109 |
| 2. 外部評価報告 | |
| ◇外部評価委員会（中間） | 121 |
| ◇外部評価委員会（最終） | 131 |

第 I 部 事業の概要

1. 事業の概要・特徴

本プログラムは、北陸地区における医科系4大学、看護系1大学より構成され、スキームは、①がん教育改革（本科8コース）、②地域がん医療（インテンシブ11コース）、③がん研究者養成（本科2コース）より構成されている。

北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プラン

| | 金沢大学 | 富山大学 | 福井大学 | 金沢医科大学 | 石川県立看護大学 |
|-----------------|---|---|------------------------------------|---|---|
| | がん制御学講座 国際がん治療学分野 | 臨床腫瘍学講座 | 腫瘍病態治療学講座 | 腫瘍内科学講座 | 成人看護学講座 |
| がん研究者養成 | がん研究者養成のための卒前・卒後一貫教育コース Medical Research Trainingプログラム | がん研究者養成コース 国際機関連携教育 MD・PhDによる学部・大学院一貫教育 | | | |
| 地域貢献 | 地域医療人のための生涯教育コース 金沢・加賀地区重点 (インテンシブ) | 地域がん専門医師養成コース (インテンシブ) | 在宅緩和医療医師養成コース (インテンシブ) | がんプロフェッショナル専門医養成系コース 富山県西部能金南部連合地域及び能金北部地域重点 (インテンシブ) | |
| | | | 在宅緩和医療スタッフ養成コース (インテンシブ) | | 地域がん看護活性化コース 休職中看護職復帰教育等 (インテンシブ) |
| | 地域がん医療人養成コース 地域がんネットワーク活用による多職種連携 (インテンシブ) | 地域がん看護師養成コース がん患者の語りから学ぶがん医療 (インテンシブ) | | | 地域がん看護師養成コース 総合的な判断能力と組織的な問題解決力の養成 (インテンシブ) |
| | がん専門薬剤師養成コース 統一カリキュラム・演習・実習共同開催 (インテンシブ) | | | | |
| 臨床現場でのチームリーダー養成 | がん専門放射線技術・医学物理コース | | | | |
| | がん専門薬剤師養成コース 統一カリキュラム・演習・実習共同開催 | | | | |
| | がんチーム医療リーダー養成コース 医科系大学連携による単位互換 | がんチーム医療リーダー養成コース 医科系大学連携による単位互換 | がんチーム医療リーダー養成コース 医科系大学連携による単位互換 | がんプロフェッショナル専門医リーダー養成コース 医科系大学連携による単位互換 | がん専門看護師養成コース |
| | | | | IPEによるチームマインド養成 | |
| | | | | IPEによるチームマインド養成 | |

2. 事業実施の必要性

① がん教育改革

課題

臨床現場では、チーム医療のリーダーとして活躍できるがん医療スタッフが不足している。多職種連携によるがん患者視点の最適な治療法を実施するためには、チーム医療リーダーとして活躍できる医療スタッフの育成プログラムによる医療スタッフ養成が課題となっている。

対応策

「医科系がんチーム医療リーダー養成コース」、「がん看護専門看護師養成コース」、「がん専門薬剤師養成コース」、「がん専門放射線技術・医学物理コース」等を設置し、臨床現場でチーム医療のリーダーとして活躍できる人材を養成する。また、がん患者視点での最適な治療実施のため、がん患者も含めた IPE ワークショップを実施する。

② 地域がん医療

課題

北陸地域においては、能登北部地区、富山県西部能登南部連合地域、および福井県嶺南地域等で医療過疎化が進行しており、がん診療体制の再構築が喫緊の課題である。

地域がん医療専門家を志す医療スタッフがいても、地理的・時間的な制約を受けて目的を達成できないため、地理的・時間的な制約を受けないプログラムの確立による地域医療人育成が課題である。また地域がん医療ネットワークを効果的に活用し、多職種協働ができる人材が不足している。慢性的な看護師不足状態が存在するが、休職中の看護師等を活用するに際し、高度化したがん医療に対応するための教育システムが確立されていない。

対応策

「地域がん専門医師養成コース」等を設置し、大学と連携し、地域医療過疎地域の拠点病院においてテレビ会議、e-Learning 等の ICT プラットフォームによる研修、スタッフ教育、キャンサーボードを実施することにより、地理的・時間的制限を受けない研修環境を構築する。また、「地域がん医療人養成コース（地域がんネットワーク活用による多職種連携）」を設置し、テレビ会議、e-Learning 等の ICT、地域がん医療ネットワークの活用により多職種協働できる人材を養成する。「地域がん看護師養成コース」および「地域がん看護活性化コース」を設け、地域看護の活性化、休職中の看護師の復帰へ繋げる。

③ がん研究者養成

課題

国際的視野を持ったがんに関する新たな診断・治療法などの開発研究等を担う研究者が不足しており、高度な研究能力を有するがん研究者の早期育成が課題となっている。学部教育の中で研究マインドを植付け、実際に研究を開始しても、卒後研修等で研究の継続が困難である現状を改善するシステムの構築が課題となっている。

対応策

「がん研究者養成のための卒前・卒後一貫教育コース」、「がん研究者養成コース」を設置し、Medical Research Training プログラムや MD-PhD コースなどの独自のシステムによる学部・大学院一貫教育および国際研究機関と連携した教育により国際的にレベルの高い優れた研究能力を有するがん研究医を養成する。

3. 達成目標

- ✓患者の立場に立ったがんチーム医療リーダー養成により、円滑な多職種連携による臓器横断的がん医療が進歩し、全人的がん医療が普及する。
- ✓地域にがん専門の医療人が定着し、地域のがん医療レベルが向上する。
- ✓都市部の専門病院と地域医療機関の連携（がん早期発見、術後の経過観察、在宅化学療法、緩和ケア等）が促進され地域住民の利便性およびがん医療の均てん化が向上する。
- ✓医療スタッフの地域定着による地域医療の活性化につながる。
- ✓休職中の医療スタッフの地域がん医療への復帰が促進される。
- ✓国際的レベルの優れたがん研究能力を有する高度がん研究医の早期養成に繋がる。

4. 事業の体制

大学間連携—大学ごとの役割分担や連携のメリット等—

大学間の実質的連携により、各大学の得意分野の教育コンテンツ拡充、単位互換の推進、多職種連携プログラム実施が可能となり、北陸地区全体として、がん医療レベル、研修レベル、研究レベルが向上する。また、大学間連携により多職種間連携地域ネットワークが充実し、過疎地域を含む北陸全域のがん医療の均てん化に繋がる。

事業の運営体制

連携5大学、地域医療機関、自治体、患者会等による運営協議会を最高意思決定機関とし、連携5大学による総務委員会（ステアリングコミッティ）、教務委員会、キャンサーボード委員会が実際の運営を行う。各大学連携についてはコーディネーターが調整する。教員の資質向上のためFD委員会を設置し定期的研修、ワークショップ等を実施する。

事業の評価体制

プログラムの評価システムとして、内部評価委員会、外部評価委員会を立ち上げ、定期的（中間、最終）評価を実施し、PDCAサイクルが確実に回るようにし、当初のKGI、KPIが達成されるよう定期的にモニタリングしていく。また、上記の各種委員会の中でも定期的にPDCAサイクルが回るようモニタリングを行う。

5. 実施計画

◇ 5年間の実施計画

| 年度 月 | 24年度 |
|---------|--|
| 4 | 全体会議（総務委員会、教務委員会、がんセンターボード委員会）の開催 事業計画（中期、年度）、アクションプラン等協議 各研究コース、講座設置に伴う関係規程等の整備 ホームページの立ち上げ e-Learning クラウドシステム参加 がんプロ・がんセンターボード（テレビ会議方式）の開始 |
| 5 | 運営協議会の開催（事業計画承認決定） |
| 6 | FD研修会の開催 |
| 7 | 医療スタッフ系セミナーの開催 |
| 8 | 教育・臨床実地修練計画のための学術調査 IPE ワークショップ開催 |
| 9 | テレビ会議システムの導入 市民公開シンポジウム開催 |
| 10 | 各研究コースの開始、講座の設置 |
| 11 | 国際セミナーの開催 |

| 年度 月 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 |
|---------|--|-------------|------|-------------|
| 4 | 全体会議（総務委員会、教務委員会、がんセンターボード委員会）の開催 事業計画（中期、年度）、アクションプラン等協議 | | | |
| 5 | ステアリングコミッテイ 運営協議会の開催（事業計画承認決定） | | | |
| 6 | FD 研修会の開催 | | | |
| 7 | 医療スタッフ系セミナーの開催 | | | |
| 8 | IPE ワークショップ開催 | | | |
| 9 | 市民公開シンポジウム開催 | | | |
| 11 | 国際セミナーの開催 | | | |
| 1 | | 内部評価（中間）の実施 | | 内部評価（最終）の実施 |
| 2 | | 外部評価（中間）の実施 | | 外部評価（最終）の実施 |
| 3 | | | | 事業成果報告会の開催 |

◇教育コース一覧

金沢大学

| コーディネーター職・氏名 | |
|--|-----|
| 集学的治療学教授 並木 幹夫（兼・統括コーディネーター） | |
| 量子医療技術学教授 天野 良平（医師以外の医療スタッフコーディネーター） | |
| 設置するコースの名称 | 詳細 |
| ◆がんチーム医療リーダー養成コース【医薬保健学総合研究科がん医科学専攻】 | P 7 |
| ◆がん専門薬剤師養成コース【医薬保健学総合研究科薬学専攻】 | P 8 |
| ◆がん専門放射線技術・医学物理コース【医薬保健学総合研究科保健学専攻】 | P 9 |
| ◆地域医療人のためのがん生涯教育コース（インテンシブ） 【医薬保健学総合研究科がん医科学専攻】 | P10 |
| ◆がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ）【医薬保健学総合研究科薬学専攻】 | P11 |
| ◆地域がん医療人養成コース（インテンシブ）【医薬保健学総合研究科保健学専攻】 | P12 |
| ◆がん研究者養成のための卒前・卒後一貫教育コース 【医薬保健学総合研究科がん医科学専攻】 | P13 |

富山大学

| コーディネーター職・氏名 | |
|--|-----|
| 附属病院臨床腫瘍部長 菓子井 達彦 | |
| 設置するコースの名称 | 詳細 |
| ◆がん専門医療人リーダー養成コース 【医学薬学教育部生命・臨床医学専攻／医学薬学教育部東西統合医学専攻】 | P14 |
| ◆がん専門薬剤師養成コース【医学薬学教育部薬学専攻】 | P15 |
| ◆地域がん専門医師養成コース（インテンシブ） 【医学薬学教育部生命・臨床医学専攻／医学薬学教育部東西統合医学専攻】 | P16 |
| ◆がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ）【医学薬学教育部薬学専攻】 | P17 |
| ◆地域がん看護師養成コース（インテンシブ）【医学薬学教育部看護学専攻】 | P18 |
| ◆がん研究者養成コース 【医学薬学教育部生命・臨床医学専攻／医学薬学教育部東西統合医学専攻】 | P19 |

福井大学

| コーディネーター職・氏名 | |
|--|-----|
| 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教授 藤枝 重治 | |
| 設置するコースの名称 | 詳細 |
| ◆がん専門医療リーダー養成コース【医学系研究科先端応用医学専攻】 | P20 |
| ◆在宅緩和医療医師養成コース（インテンシブ）【医学系研究科先端応用医学専攻】 | P21 |
| ◆在宅緩和医療スタッフ養成コース（インテンシブ）【医学系研究科先端応用医学専攻】 | P22 |

金沢医科大学

| コーディネーター職・氏名 | |
|---|-----|
| 腫瘍内科学講座教授 元雄 良治 | |
| 設置するコースの名称 | 詳細 |
| ◆がんプロフェSSIONAL専門医リーダー養成コース【医学研究科生命医科学専攻】 | P23 |
| ◆がんプロフェSSIONAL専門医養成系コース（インテンシブ） 【医学研究科生命医科学専攻】 | P24 |

石川県立看護大学

| コーディネーター職・氏名 | |
|--|-----|
| 成人看護学分野教授 牧野 智恵 | |
| 設置するコースの名称 | 詳細 |
| ◆がん看護専門看護師養成コース 【看護学研究科看護学専攻博士前期課程実践看護学領域成人看護学分野】 | P25 |
| ◆地域がん看護師養成コース（インテンシブ） 【看護学研究科看護学専攻博士前期課程実践看護学領域成人看護学分野】 | P26 |
| ◆地域がん看護活性化コース（インテンシブ） 【看護学研究科看護学専攻博士前期課程実践看護学領域成人看護学分野】 | P27 |

6. 教育コース

◇教育コースの概要

| | | | | | | | |
|----------------------------|---|----------|-----|-----|------------------------|-----|----|
| 大学名等 | 金沢大学医薬保健学総合研究科がん医科学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | がんチーム医療リーダー養成コース | | | | | | |
| コースの重点区分 | ①教育改革 | 養成する専門分野 | | | がん治療専門医 (チーム医療リーダー) | | |
| コースの開始時期 | 平成24年10月 | 修業年限(期間) | | 4年 | | | |
| コースの履修対象者 | 医薬保健学総合研究科がん医科学専攻大学院生 | | | | | | |
| 養成する人材像 | 国際的視野を有し、がん治療に関する幅広い知識・技術を有するがん治療専門医。将来のがんチーム医療のリーダー。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム) | がん治療において放射線治療医、腫瘍内科医、緩和医療医、腫瘍外科医等が必要であるが、本コースで養成された人材は、がん治療に関する幅広い知識・技術を有するため、将来がんチーム医療のリーダーとなることが期待され、がんチーム医療が推進される。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | 本コースにおいては、がん治療に必須の全て科目の特論・演習の単位取得と海外研修(International Training Program)を義務化し将来がん医療チームのリーダーとなるために必要な教育を行う。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | がんに関わる24単位を含む30単位以上の授業科目の履修と、がんに関係する研究論文が学位審査に合格すること。 | | | | | | |
| 履修科目等 | がんプロ授業科目(24単位以上、e-Learning授業含む) 初期総合カリキュラム授業科目(4単位) 他の授業科目(2単位) | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 14 |
| | 受入目標人数 | 2 | 3 | 3 | 3 | 3 | 14 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|--|----------|---------|-----|-----|-----|---|
| 大学名等 | 金沢大学医薬保健学総合研究科薬学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | がん専門薬剤師養成コース | | | | | | |
| コースの重点区分 | ①教育改革 | 養成する専門分野 | がん専門薬剤師 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成25年4月 | 修業年限(期間) | 4年 | | | | |
| コースの履修対象者 | 医薬保健学総合研究科薬学専攻大学院生 | | | | | | |
| 養成する人材像 | がん化学療法が安全に、そして患者の負担を少しでも減らせるように、がん薬物治療の最新の知識を有し、かつ、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム) | 標準的ながん化学療法をより、多くの患者に適応できる。 がん患者に起こる薬剤等の副作用の軽減による、患者のQOLの向上と医療費の軽減。がん患者における医療安全の向上。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | 薬学系においては、広く臨床能力を高めるために新設された6年制学士課程卒業後の学生を対象に、がん薬物治療に特化した専門能力をたかめるための4年制博士課程の充実をはかる。特色としては、e-Learning科目を積極的に活用する一方で、がん薬物療法に関係したより実践的で専門的な能力身につけるために、薬剤師に要求されるスキル(抗がん剤の調製、管理、バイタルサインチェック等の副作用モニタリング)を大学間の壁を越えて、臨床現場で共通に学ぶ事のできるシステムである。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 講義科目は、e-Learningにより受講。演習、実習科目は、富山大学と共同で開催する。実習、演習は主に金沢大学附属病院で実施する。 修了要件:6科目6単位以上 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 分子腫瘍学特論(1単位)、臨床統計学特論(1単位)、臨床栄養学特論(1単位)、がんリスクマネジメント実習(0.5単位)、がん薬物治療副作用モニタリング演習(0.5単位) <選択科目> 腫瘍薬物学特論(1単位)、がん緩和医療学特論(1単位) ほか3科目 | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |
| | 受入目標人数 | | 1 | 1 | 2 | 2 | 6 |

| | | | | | | | |
|------------------------------------|--|----------|-------------------------------|-----|-----|-----|---|
| 大学名等 | 金沢大学医薬保健学総合研究科保健学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | がん専門放射線技術・医学物理コース | | | | | | |
| コースの重点区分 | ①教育改革 | 養成する専門分野 | 診療放射線技師, 医学物理士, 放射線治療品質管理士 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成25年4月 | 修業年限(期間) | 3年 | | | | |
| コースの履修対象者 | 医薬保健学総合研究科保健学専攻(博士後期課程)大学院生 | | | | | | |
| 養成する人材像 | 国際的視野を持ち、放射線治療部門に於ける放射線技術科学、 医学物理学及び実質的品質管理の指導者/リーダー。 | | | | | | |
| 当該人材養成により 期待される成果や 効果(アウトカム) | がんに関する広範囲な医学的、技術的および医学物理学的知識に 基づいた患者へのケア・相談ができるようになる。 医学物理学の分野での指導者として、俯瞰的に国際医療及び地域 医療の捉え、地域の放射線治療の底上げを担う人材ができる。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | 前「がんプロ」設置コースの積み上げ教育として、博士後期課程に がん専門放射線技術・医学物理コースを置く。 個別のe-Learningシステムに加えて、広範囲な関連科目を網羅する と期待される全国的なe-Learningシステムを活用し、個々の受講生 の必要・意欲に応じた自由度の高い科目選択ができる教育コースと する。また繰り返しコースの受講できる特徴を生かし質を高める。 海外学会・研修会への参加を促し、国際的視野を高める。実践的な 放射線治療の品質管理者の養成として、線量測定の実践的教育を 行う(地域施設インターン)。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 医学系科目2科目2単位以上、医師以外の医療スタッフ系科目 2科目2単位以上の計4単位以上。また、e-Learningでの学習を本 学での学習と合わせ単位を確認し、博士課程教務委員会にて 修了要件を判定する。 | | | | | | |
| 履修科目等 | 腫瘍外科学に関する科目、腫瘍内科学に関する科目、看護学・薬学 に関する科目、医学物理に関する科目。具体的には全国の e-Learningと本学のe-Learningの進捗を確認し24年度に整備 する。 | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |
| | 受入目標人数 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|---|----------|---------|-----|-----|-----|----|
| 大学名等 | 金沢大学医薬保健学総合研究科がん医科学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | 地域医療人のためのがん生涯教育コース（インテンシブ） | | | | | | |
| コースの重点区分 | ②地域貢献 | 養成する専門分野 | がん治療専門医 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成24年10月 | 修業年限（期間） | 1年（延長可） | | | | |
| コースの履修対象者 | 地域でがん診療に携わる医師 | | | | | | |
| 養成する人材像 | 石川県がん診療連携拠点病院とがん診療の病病連携、病診連携ができるための優れた能力を有する医師（石川県がん診療推進病院・協力病院・その他の病院・医院に勤務する医師）。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム） | 増加するがん患者に質の高いがん医療を提供するためには、がん診療連携拠点病院とそれ以外の医療機関との連携が必須である。本コースにより多くの一定レベル以上の知識を有する医師が増えれば、がん医療の均てん化のみならず、病院の機能分担が促進される。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | 全国e-Learningクラウド等を利用して自己学習を行うのみならず、テレビ会議システムを利用したカンサーボードへの出席を義務づける。また適宜、講師の派遣による出張演習も行う。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目3単位の取得（e-Learning）。 カンサーボードへの出席10回（テレビ会議システム）。 | | | | | | |
| 履修科目等 | 必修科目3単位 （腫瘍薬物学特論、腫瘍放射線医学特論、がん緩和医療学特論） | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | 3 | 6 | 6 | 6 | 6 | 27 |
| | 受入目標人数 | 2 | 6 | 6 | 6 | 6 | 26 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|--|----------|--------------|-----|-----|-----|----|
| 大学名等 | 金沢大学医薬保健学総合研究科薬学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ） | | | | | | |
| コースの重点区分 | ②地域貢献 | 養成する専門分野 | がん専門薬剤師 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成25年4月 | 修業年限（期間） | 3ヶ月から1年（延長可） | | | | |
| コースの履修対象者 | 薬剤師免許を有し、がん専門薬剤師の資格を取得しようとする者。 日本医療薬学会認定のがん薬物療法認定薬剤師。 | | | | | | |
| 養成する人材像 | がん化学療法が安全に、そして患者の負担を少しでも減らせるように、がん薬物治療の最新の知識を有し、かつ、がん患者の心理を良く理解し、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム） | 標準的ながん化学療法をより、多くの患者に適応できる薬剤師の育成。がん患者に起こる薬剤等の副作用の軽減による、患者のQOLの向上と医療費の軽減。がん患者における医療安全の向上。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | がん薬物治療について専門的に学びたいという薬剤師を対象に、e-Learning科目を積極的に活用する一方で、がん薬物療法に関係したより実践的で専門的な能力身につけるために、薬剤師に要求されるスキル（抗がん剤の調製、管理、バイタルサインチェック等の副作用モニタリング）を大学間の壁を越えて、臨床現場で共通に学ぶ事のできるシステムである。一方で、がん薬物治療の専門家の講演会等に出席する機会が地域の薬剤師には与えられる。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 講義科目は、e-Learningにより受講。演習や実習科目は、富山大学と共同で開設し、一部は金沢大学病院において実施する。 修了要件：6科目6単位以上 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 分子腫瘍学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、がんリスクマネジメント実習（0.5単位）、がん薬物治療副作用モニタリング演習（0.5単位） <選択科目> 腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位） ほか3科目 | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | | 2 | 2 | 4 | 4 | 12 |
| | 受入目標人数 | | 2 | 2 | 4 | 4 | 12 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|--|----------|--------------------------------|-----|-----|-----|----|
| 大学名等 | 金沢大学医薬保健総合研究科保健学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | 地域がん医療人養成コース（インテンシブ） | | | | | | |
| コースの重点区分 | ②地域貢献 | 養成する専門分野 | 看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成25年4月 | 修業年限（期間） | 1年（延長可） | | | | |
| コースの履修対象者 | 臨床あるいは休職中の看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、理学療法士、作業療法士 | | | | | | |
| 養成する人材像 | 地域医療に情熱を持ち、地域がん医療のネットワークを効果的に活用し、多職種協働できる人材。 医療者間の支援ができる人材。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム） | 地域がん医療の多職種連携ネットワークが拡充するとともに、大学院でのe-Learningやキャンサーボード-テレビ教育によるインターン教育方法が開発され、実証・実践される。 休業中の看護師・保健師等の地域がん医療への復帰を促す。 医療施設あるいは保健施設でのがん専門の相談、教育窓口の設置がされる。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | e-Learningやキャンサーボード-テレビ教育によるインターン教育がんサバイバー教育。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 履修科目は、富山大学・福井大学・石川県立看護大学と共同で開設し、ICT利用し共通に履修する。修了要件の詳細は、24年度決定する。科目履修制度のもと、大学院単位「臨地マネジメント演習」を活用。修了単位数は4単位を想定している。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 地区診断に関する科目・がんサバイバーの概論に関する科目 ・ 直接的ケアに関する科目（コミュニケーション、交渉など） ・ 組織・ネットワークづくりに関する科目 ・ 症例のまとめ方に関するもの（事例報告、事例研究など） | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | / | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |
| | 受入目標人数 | / | 10 | 10 | 10 | 10 | 40 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|--|----------|-------|-----|-----|-----|---|
| 大学名等 | 金沢大学医薬保健学総合研究科がん医科学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | がん研究者養成のための卒前・卒後一貫教育コース | | | | | | |
| コースの重点区分 | ③研究者 | 養成する専門分野 | がん研究医 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成25年4月 | 修業年限(期間) | 4年 | | | | |
| コースの履修対象者 | 医薬保健学総合研究科がん医科学専攻大学院生 | | | | | | |
| 養成する人材像 | がんに関する基礎研究、Translational researchを遂行できるがん研究医。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム) | 卒後研修制度の導入により、研究思考を有する医師が減少する中で、本コースは卒前教育からリサーチマインドを植付け、卒前から研究をはじめた学生が卒後も研究を継続することにより、国際的にレベルの高いがん研究医を養成することが期待される。 また、大学院の授業でがんプロ授業科目を学ぶことにより、がんの臨床に精通した研究者を養成することができる。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | 卒前のMedical Research Training Programや基礎配属でがん研究マインドを植付け、研究活動を開始し、卒後臨床研修期間中も研究を継続できるがん研究者養成のための卒前・卒後一貫教育コース。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | がんに関わる24単位を含む30単位以上の授業科目の履修と、がんに関係する研究論文が学位審査に合格すること。 | | | | | | |
| 履修科目等 | がんプロ授業科目(24単位以上、e-Learning授業含む) 初期総合カリキュラム授業科目(4単位) 他の専攻の授業科目(2単位) | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | | 1 | 2 | 3 | 3 | 9 |
| | 受入目標人数 | | 1 | 2 | 3 | 3 | 9 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|---|----------|----------------------------|-----|-----|-----|----|
| 大学名等 | 富山大学医学薬学教育部生命・臨床医学専攻 医学薬学教育部東西統合医学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | がん専門医療人リーダー養成コース | | | | | | |
| コースの重点区分 | ①教育改革 | 養成する専門分野 | 臨床腫瘍医 放射線治療医 がん緩和ケア医 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成25年4月 | 修業年限(期間) | 4年 | | | | |
| コースの履修対象者 | 医学薬学教育部生命・臨床医学専攻 医学薬学教育部東西統合医学専攻大学院生 | | | | | | |
| 養成する人材像 | がんに関する国際的な視野を持った指導者や臨床現場でのリーダーをはじめとした、優れたがん専門医療人。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム) | 地域におけるがん医療の中心となり、その質の向上に貢献する。次世代のがん医療人養成のための教育・研究スキルを身につける。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | 初期研修と大学院教育の両立を計り、がんの臨床研究等に精通した専門医を育成する。 <u>他職種との連携教育</u> を推進し、チーム医療の中心となる人材を育成する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目22単位、選択科目8単位以上、計30単位以上を履修し修了試験に合格すること。 | | | | | | |
| 履修科目等 | 〈必修科目〉 腫瘍薬物学特論講義(1単位) 腫瘍薬物学演習(1単位) 腫瘍放射線医学特論講義(1単位) 腫瘍放射線医学演習(1単位) がん緩和医療学特論講義(1単位) がん緩和医療学演習(1単位) 腫瘍病理学特論講義(1単位) 腫瘍病理学演習(1単位) 臨床腫瘍学特論講義(1単位) 臨床腫瘍学演習I(1単位) がん外科学特論講義(1単位) がん外科学演習(1単位) 〈選択科目〉 臨床腫瘍学演習II(4単位) など | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 12 |
| | 受入目標人数 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 12 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|---|----------|---------|-----|-----|-----|---|
| 大学名等 | 富山大学医学薬学教育部薬学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | がん専門薬剤師養成コース | | | | | | |
| コースの重点区分 | ①教育改革 | 養成する専門分野 | がん専門薬剤師 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成25年4月 | 修業年限(期間) | 4年 | | | | |
| コースの履修対象者 | 医学薬学教育部薬学専攻大学院生 | | | | | | |
| 養成する人材像 | がん化学療法が効果的かつ安全に、そして患者の負担を少しでも減らせるようにがん薬物治療の最新の知識を有し、かつ、がん患者の心理を良く理解する知識・技能を持ち、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム) | レジメンや抗ガン剤管理および副作用対策を通じて標準的ながん化学療法をより多くの患者へより最小の不利益で実施することができ、がん患者に起こる薬剤等の副作用の軽減による、患者のQOLの向上と医療費の軽減を実施できる。がん患者における医療安全の向上。緩和医療やがん精神医療にも精通することで、全人的なケアが可能な人材を育成可能。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | 薬学系においては、広く臨床能力を高めるために新設された6年制学士課程卒業後の学生や旧課程卒で高度な薬剤師を目指す学生に、がん薬物治療に特化した専門能力を高めるための4年制博士課程の充実をはかる。よりよい教育を施すために、北陸地域にある2つの国立大学薬学部(富山と金沢)が共同でカリキュラム開発・実施をする。特色としては、e-Learning科目を積極的に活用する一方で、がん薬物療法に関係したより実践的で専門的な能力を身につけるために、薬剤師に要求されるスキル(抗がん剤の調製、管理、バイタルサインチェック等の副作用モニタリング)を大学間の壁を越えて、臨床現場で共通に学ぶ事のできるシステムである。2大学の大学院生が一緒になって実習・演習を受けることで、学生間で知識を交換することができ、切磋琢磨できる環境の提供にもつながる。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 講義科目は、e-Learningにより受講。演習、実習科目は、金沢大学と共同で開催する。金沢大学附属病院での実施分は富山大学の大学院生も履修可能として単位認定できるようにする。 修了要件：6科目6単位以上 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目>分子腫瘍学特論(1単位)、臨床統計学特論(1単位)、臨床栄養学特論(1単位)、がんリスクマネジメント実習(0.5単位)、がん薬物治療副作用モニタリング演習(0.5単位) <選択科目>腫瘍薬物学特論(1単位)、がん緩和医療学特論(1単位) ほか3科目 | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |
| | 受入目標人数 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 4 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|--|----------|-----|-----|------------------|-----|----|
| 大学名等 | 富山大学医学薬学教育部生命・臨床医学専攻 医学薬学教育部東西統合医学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | 地域がん専門医師養成コース(インテンシブ) | | | | | | |
| コースの重点区分 | ②地域貢献 | 養成する専門分野 | | | がん専門医 | | |
| コースの開始時期 | 平成24年10月 | 修業年限(期間) | | | 3ヶ月から1年 (延長可) | | |
| コースの履修対象者 | 地域医療機関でがん医療に携わる医師 | | | | | | |
| 養成する人材像 | 地域医療機関などでがん医療に携わる医師が、より専門性の高い教育をうけることにより、地域がん医療の中心的役割を果たす。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム) | 地域全体のがん医療の質の向上と均てん化をはかるとともに、がん医療人の地域への定着を推進する。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | e-Learningおよびテレビ会議システムを活用し、合同カンサーボードへの参加等を単位として認定する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目3単位(e-Learning)。 カンサーボードへの参加10回(テレビ会議システム)。 | | | | | | |
| 履修科目等 | 必修科目3単位(腫瘍薬物学特論、腫瘍放射線医学特論、がん緩和医療学特論)。 本コースの特徴として、カンサーボードやセミナー等への参加が単位認定の重点となるように考慮する。 | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | 3 | 5 | 5 | 5 | 5 | 23 |
| | 受入目標人数 | 3 | 5 | 5 | 5 | 5 | 23 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|--|----------|--------------|-----|-----|-----|---|
| 大学名等 | 富山大学医学薬学教育部薬学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | がん専門薬剤師養成コース（インテンシブ） | | | | | | |
| コースの重点区分 | ②地域貢献 | 養成する専門分野 | がん専門薬剤師 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成25年4月 | 修業年限（期間） | 3ヶ月から1年（延長可） | | | | |
| コースの履修対象者 | 病院薬剤師でがん化学療法が効果的かつ安全に、そして患者の負担を少しでも減らせるようにがん薬物治療の最新の知識を有し、かつ、がん患者の心理を良く理解する知識・技能を持ち、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる者 | | | | | | |
| 養成する人材像 | がん化学療法が効果的かつ安全に、そして患者の負担を少しでも減らせるようにがん薬物治療の最新の知識を有し、かつ、がん患者の心理を良く理解する知識・技能を持ち、チーム医療の中で他の医療従事者を支援できる人材 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム） | レジメンや抗がん剤管理および副作用対策を通じて標準的ながん化学療法をより多くの患者へより最小の不利益で実施することができ、がん患者に起こる薬剤等の副作用の軽減による、患者のQOLの向上と医療費の軽減を実施できる。がん患者における医療安全の向上。緩和医療やがん精神医療にも精通することで、全人的なケアが可能な人材を育成可能。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | がん薬物治療について専門的に学びたいという薬剤師を対象に、e-Learning科目を積極的に活用する一方で、がん薬物療法に関係したより実践的で専門的な能力身につけるために、薬剤師に要求されるスキル（抗がん剤の調製、管理、バイタルサインチェック等の副作用モニタリング）を大学間の壁を越えて、臨床現場で共通に学ぶ事のできるシステムである。一方で、がん薬物治療の専門家の講演会等に出席する機会が地域の薬剤師には与えられる。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 講義科目は、e-Learningにより受講。演習や実習科目は、金沢大学大学院薬学系と共同で開設し、一部は金沢大学病院において実施する。 修了要件：6科目6単位以上 | | | | | | |
| 履修科目等 | <必修科目> 分子腫瘍学特論（1単位）、臨床統計学特論（1単位）、臨床栄養学特論（1単位）、がんリスクマネジメント実習（0.5単位）、がん薬物治療副作用モニタリング演習（0.5単位） <選択科目> 腫瘍薬物学特論（1単位）、がん緩和医療学特論（1単位）ほか3科目 | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |
| | 受入目標人数 | | 1 | 1 | 2 | 2 | 6 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|---|----------|-------------|-----|-----|-----|----|
| 大学名等 | 富山大学医学薬学教育部看護学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | 地域がん看護師養成コース（インテンシブ） | | | | | | |
| コースの重点区分 | ②地域貢献 | 養成する専門分野 | 看護師・保健師・助産師 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成25年4月 | 修業年限（期間） | 1年（延長可） | | | | |
| コースの履修対象者 | がん看護に関心のある看護師・保健師・助産師 | | | | | | |
| 養成する人材像 | がん看護に関する理論やがん患者の全人的苦痛に関するアセスメント能力に基づいたより実践的な看護実践能力を有する人材。 がん患者の語りを傾聴・共感ができ、がん患者の語りを生かしたがん医療ができる人材。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム） | がん患者の語りが反映したがん医療。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | 地域がん看護事例の演習をブレンデッドラーニング形式教育で行う。語り(narrative)の聞き書き演習をブレンデッドラーニング形式教育で行う。既に資格取得したがん専門看護師(OCNS、県内に4名在)も講師として活用して教育の充実を図る。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 修了要件：必須科目2単位 授業科目は、e-Learningにより受講し、他大学と共同で開設する。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者看護論、石川県立看護大学の牧野先生担当の科目 【1】全人的苦痛のアセスメント 【2】がん看護とコミュニケーション 【3】症状マネジメント呼吸 【4】症状マネジメント倦怠感 【5】症状マネジメント痛み 【6】症状マネジメントと食事 【7】症状マネジメントと移動 【8】症状マネジメントと清潔 【9】精神症状とストレスマネジメント 【10】予防的リンパ浮腫ケア ・がん患者の聞き書きの理論と実際 | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | | 4 | 4 | 4 | 4 | 16 |
| | 受入目標人数 | | 4 | 4 | 4 | 4 | 16 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|---|----------|---------------------------|-----|-----|-----|----|
| 大学名等 | 富山大学医学薬学教育部生命・臨床医学専攻 医学薬学教育部東西統合医学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | がん研究者養成コース | | | | | | |
| コースの重点区分 | ③研究者 | 養成する専門分野 | がん研究者 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成25年4月 | 修業年限(期間) | 4年 (MD-PhDコースの場合は別途規定) | | | | |
| コースの履修対象者 | 医学薬学教育部生命・臨床医学専攻 医学薬学教育部東西統合医学専攻大学院生 (MD-PhDコースの場合は別途規定) | | | | | | |
| 養成する人材像 | がんに関する新たな診断・治療法などの開発研究等を担う、高度な研究能力を有するがん研究者。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム) | 優れた研究スキルと国際的視野に立ったがん研究を行うことによりがん医療の進歩に貢献する。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | 海外の機関(米国ハーバード大学ダナ・ファーマーがん研究所および韓国高麗大学臨床腫瘍学講座)との国際連携教育や、学部学生からがん研究に従事するMD-PhDコースによる学部-大学院一貫がん教育を推進する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目22単位、選択科目8単位以上、計30単位以上を履修し修了試験に合格すること。 | | | | | | |
| 履修科目等 | 〈必修科目〉 腫瘍薬物学特論講義(1単位) 腫瘍薬物学演習(1単位) 腫瘍放射線医学特論講義(1単位) 腫瘍放射線医学演習(1単位) がん緩和医療学特論講義(1単位) がん緩和医療学演習(1単位) 腫瘍病理学特論講義(1単位) 腫瘍病理学演習(1単位) 臨床腫瘍学特論講義(1単位) 臨床腫瘍学演習I(1単位) がん外科学特論講義(1単位) がん外科学演習(1単位) 〈選択科目〉 分子腫瘍学特論講義(1単位) など | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 12 |
| | 受入目標人数 | | 2 | 3 | 3 | 3 | 11 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|---|----------|---------|-----|-----|-----|---|
| 大学名等 | 福井大学大学院医学系研究科先端応用医学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | がん専門医療リーダー養成コース | | | | | | |
| コースの重点区分 | ①教育改革 | 養成する専門分野 | がん治療専門医 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成25年4月 | 修業年限(期間) | 4年 | | | | |
| コースの履修対象者 | 医学系研究科先端応用医学専攻腫瘍医学コースの大学院生 | | | | | | |
| 養成する人材像 | がん医療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、本学の特色を活かしたPET、MRIの機能画像診断を用いた臨床研究に卓越した医師やその他の医療従事者の養成。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム) | がん医療に携わる専門的な知識及び技能に加えて、PETやMRI等の機能画像診断能力に卓越したがん治療専門医のリーダーを養成する。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | 従来の先端応用医学専攻の腫瘍医学コースの科目及び北陸がんプロ養成プログラム・北陸高度がんプロチーム養成基盤形成プランの科目(以下、北陸がんプロ科目という。)を履修すると共に本学医科学専攻の機能画像医学部門(高エネルギー医学研究センター担当)の科目を履修することにより、画像診断能力の知識を修得する。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 履修要件・履修方法は、本研究科先端応用医学専攻の履修方法に準ずる。腫瘍医学コースの科目においては、腫瘍専門科目(北陸がんプロ科目)との単位互換により、修了要件の単位数に参入する。 | | | | | | |
| 履修科目等 | 先端応用医学専攻腫瘍医学コース <共通科目> 医科学基礎総論(4単位)・実験基礎演習(2単位)ほか2科目 <選択科目> 臨床腫瘍学特論(4単位)・臨床腫瘍学演習Ⅰ(2単位)・臨床腫瘍学演習Ⅱ(4単位)(北陸がんプロ科目10単位と読み代える) +腫瘍専門科目(北陸がんプロ科目) 機能画像医学特論Ⅱ(2単位)・機能画像医学演習(4単位) | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |
| | 受入目標人数 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|--|----------|---------|-----|-----|-----|----|
| 大学名等 | 福井大学大学院医学系研究科先端応用医学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | 在宅緩和医療医師養成コース（インテンシブ） | | | | | | |
| コースの重点区分 | ②地域貢献 | 養成する専門分野 | 在宅診療医師 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成24年10月 | 修業年限（期間） | 1年（延長可） | | | | |
| コースの履修対象者 | がんに関わる医師 | | | | | | |
| 養成する人材像 | 診療所や病院において在宅医療を行う医師においては、がん拠点病院等から在宅移行する症例に必要な全人的緩和医療が行える。また、送る側の医師では在宅で行える医療を理解する事ができる。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム） | がん拠点病院等のがん患者が在宅医療を希望した場合に、緩和を含む在宅医療が適応であるかを病院医師が判断できる。在宅移行を受け入れる事ができる在宅医を増やし、また技能の向上に寄与する。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | がん性疼痛、身体障害の緩和、終末期医療、BSCとしての栄養治療、通院治療実施時期における副作用に対する緩和、精神緩和その他、がんの各時期における全人的緩和について学ぶ。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目3単位を履修 公開講座等2回出席 | | | | | | |
| 履修科目等 | がん緩和医療学特論 臨床栄養学特論 在宅緩和医療特論（新設） | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | 3 | 5 | 5 | 5 | 5 | 23 |
| | 受入目標人数 | 2 | 4 | 5 | 5 | 5 | 21 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|--|----------|------------|-----|-----|-----|----|
| 大学名等 | 福井大学大学院医学系研究科先端応用医学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | 在宅緩和医療スタッフ養成コース（インテンシブ） | | | | | | |
| コースの重点区分 | ②地域貢献 | 養成する専門分野 | 在宅診療医療スタッフ | | | | |
| コースの開始時期 | 平成24年10月 | 修業年限（期間） | 1年（延長可） | | | | |
| コースの履修対象者 | 在宅医療に関わる、看護師、薬剤師、栄養士 | | | | | | |
| 養成する人材像 | 在宅医療に関わる医療スタッフにおいては、がん拠点病院等から在宅移行する症例に必要な全人的緩和医療が行える。また、送る側の医療スタッフは在宅で行う医療を理解し連携する事ができる。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム） | がん拠点病院等のがん患者が在宅緩和医療を希望した場合に、在宅が適応であるかを判断できる。在宅緩和の関わることができる医療スタッフを増やし、またその技能の向上に寄与する。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | がん性疼痛、身体障害の緩和、終末期医療、BSCとしての栄養治療、通院治療実施時期における副作用に対する緩和、精神緩和その他、がんの各時期における全人的緩和について学ぶ。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目3単位を履修 公開講座等2回出席 | | | | | | |
| 履修科目等 | がん緩和医療学特論 臨床栄養学特論 在宅緩和医療特論（新設） | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | 5 | 10 | 10 | 10 | 10 | 45 |
| | 受入目標人数 | 4 | 8 | 10 | 10 | 10 | 42 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|---|----------|-------|-----|-----|-----|----|
| 大学名等 | 金沢医科大学医学研究科生命医科学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | がんプロフェッショナルがん専門医リーダー養成コース | | | | | | |
| コースの重点区分 | ①教育改革 | 養成する専門分野 | 臨床腫瘍学 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成25年4月 | 修業年限(期間) | 4年 | | | | |
| コースの履修対象者 | 医学研究科生命医科学専攻大学院生 | | | | | | |
| 養成する人材像 | がんに特化した、臓器横断的な医療専門家の養成を目指し、「がん患者の視点」に立った「視野の広い、且つ高い品格」のある「がん医療」を担う専門医師を養成する。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム) | 北陸地域におけるがん専門の医療人を定着化させ、がんの早期発見・都市部の専門病院との地域連携(術後の経過観察・化学療法・緩和ケアなど)が促進される。地域のがん医療レベルが向上し、一般住民の「がん」の知識が広まるとともに「がんプロ」への理解が深まる。臓器横断的がん医療が進歩し全人的がん医療が普及する。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | 高い臨床能力と研究能力を併せ持つがん専門医養成のための融合型教育システムの構築であり、ICTを教育ツールとする。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | <p><修了要件></p> <p>博士課程に4年以上在学し、所定の単位数以上を習得し、かつ必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査に合格することで博士(医学)を授与する。専門医養成コースの授業科目のうち必修科目12単位を含む15単位を修得したもには北陸がんプロフェッショナル認定医の申請資格を授与する。</p> <p><履修方法></p> <p>ICTの活用とスクーリングによる各特論の受講と、テレビ会議システム活用によりキャンサーボード症例検討会参加や各演習科目の履修を行う。</p> | | | | | | |
| 履修科目等 | <p><必修科目></p> <p>腫瘍薬物学特論、腫瘍放射線医学特論、がん緩和医療学特論、腫瘍病理学特論、臨床腫瘍学特論、がん外科学特論、腫瘍薬物学演習、腫瘍放射線医学演習、がん緩和医療学演習、腫瘍病理学演習、臨床腫瘍学演習、がん外科学演習(各1単位)</p> <p><選択科目></p> <p>分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論、臨床統計学演習、分子生物学入門(各1単位)</p> | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 12 |
| | 受入目標人数 | | 2 | 2 | 3 | 3 | 10 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|---|----------|-----|-----|---------|-----|----|
| 大学名等 | 金沢医科大学医学研究科生命医科学専攻 | | | | | | |
| コースの名称 | がんプロフェッショナル専門医養成系コース（インテンシブ） | | | | | | |
| コースの重点区分 | ②地域貢献 | 養成する専門分野 | | | 臨床腫瘍学 | | |
| コースの開始時期 | 平成24年10月 | 修業年限（期間） | | | 1年（延長可） | | |
| コースの履修対象者 | 1 大学（医学課程）を卒業した者、又は同等以上の者 2 各学会の認定医・専門医の資格を取得した医師 | | | | | | |
| 養成する人材像 | 富山県西部能登南部連合地域および能登北部地区を重点にがん診療に携わる医師を対象として、地域におけるがん専門医を養成する。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム） | 過疎地域において「がんプロエキスパート医」を定着化させるとともに、修了後も本学と緊密な連携をとりながら地域におけるがん診療の向上につなげる。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | ICTの活用とスクリーニングによる各特論の受講と、テレビ会議システム活用によりキャンサーボード症例検討会参加や各演習科目の履修を行う。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | e-Learningの受講とテレビ会議システムを利用したキャンサーボードへの参加により、その専門領域の知識の習得状況を評価したうえで単位として認め、必修科目3単位の修了により「がんプロエキスパート医」として認定する。 | | | | | | |
| 履修科目等 | ※腫瘍薬物学特論、※腫瘍放射線医学特論、※がん緩和医療学特論、腫瘍病理学特論、臨床腫瘍学特論、がん外科学特論、分子腫瘍学特論、臨床統計学特論、臨床栄養学特論、臨床統計学演習、腫瘍病理学演習、分子生物学入門、コンサルテーション論（各1単位） ※「がんプロエキスパート医」必修科目 | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | 3 | 3 | 3 | 3 | 3 | 15 |
| | 受入目標人数 | 2 | 2 | 3 | 3 | 3 | 13 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|--|----------|-----------|-----|-----|-----|----|
| 大学名等 | 石川県立看護大学看護学研究科看護学専攻 博士前期課程実践看護学領域成人看護学分野 | | | | | | |
| コースの名称 | がん看護専門看護師養成コース | | | | | | |
| コースの重点区分 | ①教育改革 | 養成する専門分野 | がん看護専門看護師 | | | | |
| コースの開始時期 | 平成25年4月 | 修業年限(期間) | 2年 | | | | |
| コースの履修対象者 | 看護学研究科看護学専攻博士前期課程成人看護学分野大学院生 | | | | | | |
| 養成する人材像 | がん患者のQOLの向上を目的として、個人、家族、および集団に対して、キュアとケアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して、対象の治療・療養・生活過程の全般を統合・管理し、卓越した看護ケアを提供できる看護師。 さらに、総合的な判断能力と組織的な問題解決力を持ち、専門領域における新しい課題に挑戦し、現場のみならず、教育や政策の課題にも反映できる開発的役割がとれる変革推進者として機能できる看護師。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果(アウトカム) | <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者個人、家族、および集団に対して、キュアとケアの融合による高度な看護学の知識・技術を駆使して看護ケアを提供する。 ・国際的視点を取り入れながら新しい看護研究を实践に活かすことができる。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | 従来の教育手法とは違い、全国規模のe-Learningの活用や医学診断を含む実習によって、より広い知識の修得を図る。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必須科目42～44単位、選択科目4単位以上、計46単位以上を履修し、がん専門看護師認定審査に合格すること。 | | | | | | |
| 履修科目等 | <p><必須科目>38単位+特別研究(4～6単位)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『共通科目A』4単位；「看護科学論」(2単位)、「看護研究」(2単位) ・『共通科目B』6単位；「フィジカルアセスメント」(2単位)、「病態生理学」(2単位)、「臨床薬理学」(2単位) ・『専攻分野共通科目』6単位；「成人看護学特論」(2単位)、「継続・緩和ケア展開論」(2単位)、「がん病態治療学特論」(2単位) ・『専攻分野専門科目』(演習)8単位；「継続・緩和ケア演習」(仮)(がん薬物療法、放射線療法看護、緩和ケア、がんリハビリテーション看護、幹細胞移植看護、緩和ケア、などを含む) ・「継続・緩和ケア実習」(実習)；10単位(300時間) ・「特別研究」 <p><選択科目>4単位以上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「共通科目A」4単位以上；「コンサルテーション論」(2単位)、「ケアと哲学」(2単位)、「看護教育特論」(2単位)、ほか4科目 | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | | 3 | 3 | 3 | 3 | 12 |
| | 受入目標人数 | | 2 | 2 | 2 | 2 | 8 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|---|----------|------------|-----|-----|-----|----|
| 大学名等 | 石川県立看護大学看護学研究科看護学専攻 博士前期課程実践看護学領域成人看護学分野 | | | | | | |
| コースの名称 | 地域がん看護師養成コース（インテンシブ） | | | | | | |
| コースの重点区分 | ②地域貢献 | 養成する専門分野 | がん看護（緩和ケア） | | | | |
| コースの開始時期 | 平成24年4月 | 修業年限（期間） | 1年（延長可） | | | | |
| コースの履修対象者 | 北陸3県でがん看護の臨床経験が3年以上の看護師（または、がん看護経験が3年以上ある休職中の看護師） | | | | | | |
| 養成する人材像 | ・個人、家族、集団に対して、総合的な判断能力と組織的な問題解決力さらに倫理に関する解決能力を養う。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム） | <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者やその家族、医療者間の倫理的問題、緩和ケア、在宅医療などに関する知識を提供する（事例検討会の内容をデータベース化し、北陸がんプロのホームページにアップする）。 ・在宅看護師と施設看護師との連携の推進 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | <ul style="list-style-type: none"> ・北陸3県においてテレビ会議システムのある病院やその近隣で働く看護師が、<u>遠隔地域にいながらにして互いにごん看護に関する困難事例について意見を交換し、看護大学のがん看護専門教員やOCNSから助言を得ることができる。</u> ・本課程において修得した単位を、<u>大学院の単位認定を行い（4単位以内）</u>、OCNSへの進学の可能性を広める。 ・<u>全国規模のe-Learningの活用</u>をすることによって、より広い知識の修得を図る。 ・北陸がんプロのホームページに<u>事例検討会の内容をデータベース化</u>することによって、広く困難事例を解決する能力を養うことができる。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目4単位の履修 | | | | | | |
| 履修科目等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「看護演習」；1単位（12回／年の事例検討会への出席） ・e-Learningによる単位修得；3単位 | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | 8 | 8 | 8 | 8 | 8 | 40 |
| | 受入目標人数 | 4 | 8 | 8 | 8 | 8 | 36 |

| | | | | | | | |
|----------------------------|--|----------|------------|-----|-----|-----|----|
| 大学名等 | 石川県立看護大学看護学研究科看護学専攻 博士前期課程実践看護学領域成人看護学分野 | | | | | | |
| コースの名称 | 地域がん看護活性化コース（インテンシブ） ※地域がん看護師養成コースの休職中看護職復帰教育等を特化 | | | | | | |
| コースの重点区分 | ②地域貢献 | 養成する専門分野 | がん看護（緩和ケア） | | | | |
| コースの開始時期 | 平成24年4月 | 修業年限（期間） | 1年（延長可） | | | | |
| コースの履修対象者 | 北陸3県でがん看護の臨床経験が3年以上の看護師（または、がん看護経験が3年以上ある休職中の看護師） | | | | | | |
| 養成する人材像 | ・個人、家族、集団に対する判断能力と問題解決力さらに倫理に関する解決能力を養う。 | | | | | | |
| 当該人材養成により期待される成果や効果（アウトカム） | <ul style="list-style-type: none"> ・がん患者やその家族の倫理的問題、緩和ケアに関する知識を提供する。 ・休職中の看護職者の復帰を促し、地域のがん看護の活性化を図る ・休職中の看護職者の職場復帰。 | | | | | | |
| 教育内容の特色等 | <ul style="list-style-type: none"> ・北陸3県においてテレビ会議システムのある病院やその近隣に住む休職中の看護師が、<u>遠隔地域にいながらにして互いのがん看護に関する困難事例を通して知識を得ることができる。</u> ・本課程において修得した単位を、<u>大学院の単位認定を行い（4単位以内）</u>、OCNSへの進学の可能性を広める。 ・<u>全国規模のe-Learningの活用</u>をすることによって、より広い知識の修得を図る。 ・北陸がんプロのホームページに<u>事例検討会の内容をデータベース化</u>することによって、広く困難事例を解決する能力を養うことができる。 | | | | | | |
| 修了要件・履修方法 | 必修科目4単位の履修 | | | | | | |
| 履修科目等 | <ul style="list-style-type: none"> ・「看護演習」；1単位（12回／年の事例検討会への出席） ・e-Learningによる単位修得；3単位 | | | | | | |
| 養成人数 | 年度 | H24 | H25 | H26 | H27 | H28 | 計 |
| | 募集人員 | 4 | 4 | 4 | 4 | 4 | 20 |
| | 受入目標人数 | 2 | 3 | 4 | 4 | 4 | 17 |

◇がんに特化した講座の設置計画

| | | | |
|----------------------|--|----|------------|
| 講座の名称① | 金沢大学大学院医薬保健学総合研究科がん医科学専攻 がん制御学講座 国際がん治療学分野 | | |
| 講座の目的 | がんに特化した集学的治療を遂行できるがん治療医養成を目的とし、指導教員として集学的治療に関わる専門分野教員を充当する。国際的視野習得のため、一定期間の海外研修を義務づける。 | | |
| 講座の体制 | 集学的治療学教授（兼担）、腫瘍内科学教授（兼担）、放射線治療科臨床教授（兼担）、緩和ケアチーム臨床准教授（兼担）、助教1名（専任） | | |
| 設置予定年月 | 平成24年10月 | 財源 | 大学改革推進等補助金 |
| 補助期間終了後の講座 存続の見通し | 自大学において予算を確保して存続予定 | | |
| 講座の名称② | 富山大学医学薬学研究部臨床腫瘍学講座 | | |
| 講座の目的 | 臨床腫瘍学の教育・研究を通して、優れたがん専門医療人を養成する。地域がん医療の質向上に努めるとともに、国内外の機関との連携により、高度な研究能力を持ったがん研究者を養成する。 | | |
| 講座の体制 | 教授もしくは准教授1名（兼担）、助教1名（専任） | | |
| 設置予定年月 | 平成24年10月 | 財源 | 大学改革推進等補助金 |
| 補助期間終了後の講座 存続の見通し | 自大学において予算を確保し存続予定 | | |
| 講座の名称③ | 福井大学医学部腫瘍病態治療画像解析学講座 | | |
| 講座の目的 | がんに対する先端的分子イメージング確立と優れた定量法の開発 治療前後の嚥下・咀嚼・栄養評価に関する機能的画像定量の開発 医工学応用による新しいがん画像システムの開発 | | |
| 講座の体制 | 教授1名（兼担）、助教1名（専任） | | |
| 設置予定年月 | 平成24年10月 | 財源 | 大学改革推進等補助金 |
| 補助期間終了後の講座 存続の見通し | 自大学において予算を確保し存続予定 | | |